

平成29年度第2回敦賀市総合教育会議 議事録

1. 日 時 平成30年2月21日(水) 15:00～16:15
2. 場 所 消防3階 第1会議室
3. 出席者

	市 長	淵 上 隆 信		
	教 育 長	上 野 弘	教育長職務代理者	神 谷 敬一郎
	委 員	岸 本 松 則	委 員	中 宮 智 子
	委 員	堺 啓 輔		
事 務 局	事 務 局 長	池 田 啓 子		
	教育総務課長	山 本 寛 治	学校教育課長	江 戸 義 直
	秘書広報課長	山 田 博 道	学校給食センター所長	寺 谷 圭 司
	教育総務課主幹	吉 田 聡	教育総務課総務係長	杉 村 祐 介
	学校教育課指導主事	山 口 芳 弘	学校教育課管理栄養士	良 方 あゆみ
	教育総務課臨時	森 川 友		

4. 内 容

(1) 開会

(2) 市長あいさつ

本日は、今年度第2回目の総合教育会議に、お忙しい中、御出席をいただき、誠にありがとうございます。

今年度は、一昨年9月に教育委員会で策定した「敦賀市教育振興基本計画」等に基づき、本市独自の小中一貫教育の取組により、9年間を通して「知・徳・体」のバランスのとれた教育を進めているところです。

このような中で、特に角鹿中学校区における小中一貫校の設置については、設置準備委員会を立ち上げ、平成33年4月開校に向けて、具体的な検討作業が進められているところでございます。

本日は、小中一貫校の校名について、委員会の方で検討された内容を踏まえ、ご審議をいただきたいと思えます。

また、学校給食におけるアレルギーの対応につきましても、課題解決に向けた新たな方向性を今般手引きとして教育委員会においてまとめられたところでございますので、このような議題を中心に協議をいただければと思えますので、本日はどうぞよろしく願いいたします。

(3) 協議事項

(1) 角鹿中学校区小中一貫校の校名決定について

教育総務課長 資料に基づき説明

市長…まず校名についてご意見、ご質問はございませんか。

岸本委員…賢明な選択で喜んでいきます。角鹿中学校は半世紀にわたって歴史と伝統があり、県内でも知名度もあったので、敦賀の古い地名の角鹿が何らかの形で残ってほしいと思っていました。形として残っていくのは大事なことなので、角鹿を存続させていくというのは賢明な校名の選択だと思います。

市長…角鹿明星と角鹿永明とありますが、それぞれ歴史的な意味合いはあるのですか。

教育総務課長…角鹿明星はキラキラ輝く星のように生徒も輝いてほしいという願いが込められて応募がありました。また角鹿永明は永遠に続く伝統的な角鹿中を願ってという願いが込められています。とくに歴史的な意味合いはありません。

市長…他にご意見やご質問はありませんか。

校名は角鹿小中学校に決定したいと思いますがよろしいでしょうか。

異議なし

市長…では校名は敦賀市立角鹿小中学校に決定させていただきます。

校名決定におきまして、来年度からは校歌、校章、校旗等の検討が進められることとなります。統合に向けて様々な課題があるかと思いますが、ひとつひとつ着実に取り組んでいただけたらと思います。参考資料について何かご意見、ご質問はありませんか。建物の中のレイアウトについてはまだ決定ではありませんのでご意見がありましたらお願いいたします。

岸本委員…校舎が現在のグラウンドのところにとできると、グラウンドは狭くなりますね。

教育総務課長…建物を建てることによって狭くはなりますが、グラウンド面積は7250㎡ありますので、文科省の公立学校設置基準になっている3600㎡は満たしております。野球など部活はできると思いますが、公式試合はできないかとは思いますが。

市長…メイングラウンドは100メートルの滑走が斜めを横切る形が精一杯です。本当なら広く取れたらいいのですができないので。サブグラウンドがあるので、小学生の児童と中学生の生徒が入り混じるといようなことはないと思います。

岸本委員…広げるスペースはもうないのでですね。

教育総務課長…はい。

神谷委員…児童生徒数は何名になるのですか。

教育総務課長…見込み数ですが、小学生250名、中学生160名、合計410名です。学級数は全学年2学級を見込んでおります。

神谷委員…今の部活の数と同じぐらいになるのですか。陸上部はあるのですか。

教育総務課長…現在屋外の部活動は野球部だけと聞いております。

学校教育課長…陸上部としてはありません。

山口指導主事…部活動としてはありませんが、短距離の成績優秀な選手などが個別で練習はしてい

ます。

教育総務課長…体育館は当初はメインアリーナを中学校体育館、サブアリーナを小学校体育館と考えていたのですが、いろいろなご意見をお伺いした結果、小中を特定せずに、うまく使い分けして運用していきたいと考えております。

岸本委員…放課後に小学生が使うことはないですね。

学校教育課長…市の陸上記録会などの時は放課後活動はありますが、基本的にはスポーツ少年団の活動で各小学校のグラウンドが使用されています。

岸本委員…サブアリーナを貸し出しするのですね。

教育総務課長…メインアリーナ（現角鹿中学校体育館）も、現在夜間の解放をしています。貸出方法については、今後の専門部会で議論していくかと思っております。

堺委員…放課後児童クラブは使わないのですか。

教育総務課長…サブアリーナの隣に放課後児童クラブを新設する予定ですので、今後ご意見をいただきたいと思っております。

教 育 長…夏休み中に、放課後児童クラブの子どもたちがサブアリーナを使って体を動かすことも想定して、この配置にしたと聞きました。

神谷委員…教室ですが、開放型になるのでしょうか。

教育総務課長…教室にはWS（ワークスペース）とWR（ワークルーム）を設置し、教室内で領域を分けて調べ学習ができる図書コーナーや絵の具を洗うスペースなどの活用を想定しております。学級間や学年全体でもグループ学習が増える3～6年生では、全開可能な建具にし、普通教室と一体的に活用できるよう考えております。中学校ではWRを設けており、グループ別学習や個別指導、教師間の打合せなど多様な学習環境に対応できる設えとするなど、発達段階に応じて考えたいと思っております。

（2）敦賀市小中学校食物アレルギー対応の手引きについて

学校教育課長 資料に基づき説明

市 長…学校生活管理指導表は全員に配って対応してほしい方だけ提出するのですか。

学校教育課長…はいそうです。

市 長…転校生は最初に渡して提出してもらおうのですね。

学校教育課長…はいそうです。

岸本委員…対応の手引きは細かい点までチェックされていて、保護者にとってはありがたいことだと思います。アレルギーをもった子どもたちも、ここまでの対応をしていただければ安心して給食ができると思います。

市 長…小麦粉をじゃがいもの粉にするなどして同じものを食べられるようにという対応の中で、コスト的にはどうなのでしょう。

学校教育課長…食品の研究が進んでいることもあり、それ程差がないものもあります。たとえば月

に1回カレーがあるのですが、半分は同じものを食べられるように段階を踏んで、回数を少しずつ増やしていくことも1つの策かと思います。まだまだ検討していきながらみんなが同じもの食べるということを大事に進めていきたいと思っています。

市長…何回かに1回は同じものを食べるようにということですね。お子さんによっては自分はカレーは食べられるんだと間違えないようにしないとイケませんね。

学校教育課長…メニューの中に何が入っているかをしっかりと記入されているような表示の仕方についても気をつけていきたいと思っています。

市長…CMでしているみんなで食べられるという商品は高いのですか。

管理栄養士…アレルギーフリーの商品は今まで小さい会社が商品を作って売っていたのですが、最近は大手の食品会社が参入してきているのでコストも高くはありません。

神谷委員…敦賀市では食物アレルギーをもったお子さんは何人ぐらいいるのですか。

学校教育課長…詳細な献立表で確認をされているお子さんは小中あわせて5500名のうち77名おります。

神谷委員…学年に一人いるかいらないかですね。

学校教育課長…少しでもアレルギーがある方に詳細な献立表を渡して確認していただいています。

市長…一緒に食べられるものが増えてくるといいですね。

(その他) 今後の学校教育の在り方について

学校教育課長説明

岸本委員…基本をしっかり見直すのは大事。よい研修だと思います。

中堅の先生は一人で悩んだり、アドバイスをもらいにくい。そこに問題があると思います。校長会で出た風通しが良いとはどうなったらよいのかを校長先生が全職員に発していかないといけないと思います。

中宮委員…子どもに対する対応は難しいと思います。先生もたくさんすることがあるのでいっぱいになる時もある。

岸本委員…問題を短期間で解決するのは難しい。学校としては対応をしていることをきちんと伝えるのが可視化だと思います。

市長…学校としては子どもが特定されてしまって傷つかないかを一番心配していると思います。解決は早いほうがいいが、時間が解決することもあるので、進学を待てば環境も変わってくる。個に応じて、考えていただけたらと思います。

学校教育課長…プライバシーにも配慮しながら、共有できる部分は共有し、今後の学校の在り方として、今日いただいた意見をもとに進めていきたいと思っています。

学校教育課長…先生方も自信をもって取り組めるような、子どもも笑顔になるような手引きにしていきたいと思っております。

堺委員…先生方の仕事が多すぎると思います。こういうことをしましょう、こういうことを気をつけましょうということを増やしていくと現場の先生にとっては増えるばかりで負担になると思うので、もう少し全体の業務量を減らして、効率化していければと思

います。問題が起きるとあれもしましょう、これもしましょうと増やす方向になってしまうのですが、減らしていく方向での提案をしてあげられたらと思います。

岸本委員…子どもに関わる問題は教員がすべきことです。教員ではなくてもよいこと、減らす仕事とはどういうことがあるかを考えて人員に予算を充てるのもよいと思います。

堺委員…支援員の配置は予算にはいっていますね。そういう方向でしていけたらいいですね。

市長…ではこれで平成29年度第2回敦賀市総合教育会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。